



開会の挨拶

公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団 理事長

島谷 克義

本日は第18回ヘルスリサーチフォーラム及び平成23年度研究助成金贈呈式にご出席を賜り、誠に有り難うございます。また、日頃は当財団の事業活動に多大なるご支援とご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

当財団は昨年（2010年）10月に内閣府より公益財団法人の認定を受けて1年が経ちました。この間、計画に従って順調に事業活動を進めることができましたのも、皆様のご尽力の賜と、深く感謝いたしております。しかし、実はこの間に、当財団の生みの親、また育ての親でもあり、昨年10月より評議員会の議長をお務めいただいていた開原成允先生が、本年1月に急逝されました。私どもにとりましては誠に痛恨の極みです。先生の多大なるご貢献に感謝を申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

さて、設立した平成4年から数えますと、当財団の助成活動は本年度でちょうど20回目を迎えます。合計の助成件数が644件、助成金の総額が16億円を超えるまでになりました。改めて、主たる出捐企業でありますファイザー株式会社、並びに寄附をいただいておりますその他の団体・個人の皆様に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

一方では、3月には東日本大震災という未曾有の災害が起きており、数多くの方々が犠牲になり、また、被災をされておられます。心より哀悼の意を表させていただきますと共に、お見舞いを申し上げます。

この度の震災では、日本が抱えていた多くの医療や健康に関わる問題が一挙に顕在化した可能性があり、私どもの財団でも、先月（10月）に発行した「ヘルスリサーチニュース」で「3月11日大震災を契機に改めて日本の医療とヘルスリサーチを考える」というテーマで、国立社会保障・人口問題研究所 所長 西村周三先生、東北大学病院 金村政輝先生、甲南大学経済学部 後藤励先生による緊急鼎談を行い、震災とヘルスリサーチに関わる様々なお話をいただいております。ぜひご一読いただけると幸いです。

また来年1月に開催を予定しているヘルスリサーチワークショップでも、このテーマをベースにした議論をしていただくことを企画しており、財団としてもこの問題にきちんと向き合っていきたいと考えております。

さて、本日の会は例年のごとく2部の構成になっております。第1部が第18回ヘルスリサーチフォーラムであり、平成21年度に助成を受けた研究の成果として、国際共同研究が6題、国内共同研究が26題、それに3題の一般公募演題を加えた合計35題の研究発表をいただき、議論をしていただくというものです。そのうちの21題が、既に午前中に、

3つのセッションに分かれたポスターセッションでご発表いただいておりますが、大変多くの参加者が会場にお見えいただき、熱気に溢れた発表と議論が繰り広げられておりました。主催者として大変嬉しい限りです。

この後には残りの14題が、このメイン会場でオーラル・プレゼンテーションとして発表していただけることになっております。引き続き活発な議論をしていただけるものと期待しております。

第2部は、平成23年度の研究助成発表・贈呈式です。選考委員長の永井良三先生から、後ほど選考経過・結果について詳しくご発表いただきますが、本年度は194件の応募をいただき、そのうち29件に対して4,420万円の助成をさせていただくことが決定しております。毎年数多くの、大変レベルの高い応募研究の中から助成案件を選んでいただくということで、選考委員の先生方にはご苦労をおかけしております。改めて御礼を申し上げます。おかげさまで本年度も素晴らしい研究が採択されたものと喜んでおります。また、採択をされた研究者の皆様方には、心よりお祝いを申し上げます。

この贈呈式では、ご来賓として厚生労働省大臣官房厚生科学課長 塚原太郎先生、医療経済研究機構副所長 岡部陽二先生、出捐企業のファイザー株式会社代表取締役社長 梅田一郎様から、それぞれご挨拶をいただくことになっております。宜しく願い申し上げます。

また、贈呈式の後には情報交換会を予定しておりますので、皆様、振るってご参加いただけますようお願い申し上げます。

本日のヘルスリサーチフォーラム並びに研究助成発表・贈呈式が、私どもの目的であるヘルスリサーチの振興、すなわち自然科学や社会科学の成果が人々のQuality of Lifeの向上に役立つような会になりますことを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。